

日伊親善
国際事業

留学支援
音楽育成

コンクール
(コンクール)開催

特別演奏会
セミナー
演奏会

■ イタリア声楽コンクール ～CONCORSO LIRILA ITALIANA～



事業内容 イタリアオペラの声楽コンクール
 主催 毎日新聞社 日本イタリア協会
 後援 文化庁、イタリア大使館、イタリア文化会館、
 京都市、京都府教育委員会、愛知県教育委員会 ※歴代含む
 提携/協力 フィレンツェ市、ヴィチエンツァ市、京都市、ユネスコ、
 ミラノヨーロッパNATO安全評議会、ヴェッキオ宮殿、テアトロ・オリンピコ、
 クザーニ宮殿、ダンテの家、ヴィチエンツァ国立音楽院、フィレンツェ国立音楽院、
 ミラノ国立音楽院、ヴェローナ国立音楽院、ヴェネツィア国立音楽院、
 アニェッリホール、フィリアホール、けやきホール、京都国立博物館、京都・鷲峰山高台寺、
 浦安音楽ホール、東京藝術大学、武蔵野音楽大学、武庫川女子大学、
 名古屋芸術大学、徳島文理大学、桐朋学園大学、神戸女学院大学、くらしき作陽大学、
 国立音楽大学、大阪芸術大学、エリザベト音楽大学 歴代含む

概要/目的 イタリアは五線譜やピアノ、ヴァイオリン、オペラなどクラシック音楽の基礎・洋楽器の生まれた国、イタリア発祥究極の技であるベルカント唱法をわが国に伝えるため、正統な技術を受け継ぐ継承者育成のために若い素質に恵まれた人々を選び、ベルカントの本場イタリアへ送り、厳しい修練の中で伝統ある技巧と芸術精神を学んでもらうと云うもの。永年に亘り確固たる主旨の基、イタリアの名門国立音楽院や巨匠の元へ多くの日本人を導き、古い歴史と由緒正しい芸術の国、イタリアの芸術観や文化、技術、知識を修得してもらい、わが国の文化向上と国際力の向上に努める。
 ……2018年度には、第48回を迎える。

部門 ミラノ大賞部門 <26歳まで> シエナ大賞部門<37歳まで> ロイヤルティガー国際部門<年齢・国籍不問>
 ※受賞者には賞金(留学・教育資金)ほか、スカラシップや国際フェスティバル出場資格等、支援・教育が与えられる。

総務委員長 中川 くにこ (日本イタリア協会理事長)
 審査委員長 M^o. 小林 一男 (元国立音楽大学教授 第4回ミラノ大賞受賞)
 招聘審査委員 M^o. アルベルト・クピード
 運営委員 アルベルト・クピード (日本イタリア協会理事)
 カルミネ・カッリージ (元ボローニャ国立音楽院学長)
 パオロ・トロンコン (ヴェネト州国立音楽院総裁・カステルフランコ国立音楽院学長)
 フランチェスコ・ボレツィ (元ミラノ国立音楽院総裁)
 マルチェッラ・レアーレ (Sop. 愛知県立芸術大学教授 東京芸術大学元教授、他)
 ルチアーノ・アルベルティ (元シエナ国立音楽院学長)
 服部 克久 (日本作曲家協会会長、東京音楽大学客員教授)
 天野 春美 (大阪音楽大学元教授)
 伊藤 晶子 (名古屋音楽大学元講師)
 岡田 晴美 (神戸女学院大学名誉教授)
 門屋 菊子 (相愛大学名誉教授)
 黒田 安紀子 (第1回シエナ大賞受賞)
 塩田 美奈子 (第19回シエナ大賞受賞 国立音楽大学講師)
 松波 千津子 (名古屋芸術大学教授)



▲左から、マエストロ ルチアーノ・アルベルティ、マエストロ フランチェスコ・サヴェリオ・ボレツィ、マエストロ カルミネ・カッリージ、マエストロ アルベルト・クピードの面々。イタリアの最重要鎮に、このコンクールのために長年にわたって尽力頂いている。



▲第37回 表彰式

第42回 表彰式
 左から、マルチェッラ・レアーレ(Sop) 総務委員長中川くにこ(現理事長・Sop)、黒田安紀子・クピード(Sop.)、アルベルト・クピード(Ten.)



▲第42回 審査風景



▲日本で初めて NHK合唱団を設立し、「合唱」というものを全国に広めた70年以上前の在りし日……。音楽と平和を愛する中川牧三の真心と願いは、今なお、声楽コンクールを筆頭とした音楽振興・支援・教育へと受け継がれている。

1995 新宿文化センター



ミラノ大賞/森麻季・シエナ大賞/畔柳幸代・主審査員/M^o.中川牧三, M^o.アッパード, M^a.デューク, M^o.チチャーゴフ, M^a.伊藤京子, M^o.五十嵐喜芳, M^a.小野光子ほか

2000 紀尾井ホール



M^o. 中川牧三
 中島健一郎氏 毎日新聞社 常務取締役
 M^o.アッパード, M^o.カッリージ
 ミラノ大賞/中島康晴
 山田宏氏 (株) 松下電器産業社会文化部長



松本耕司氏
 (株) 松下電器産業
 社会文化グループ
 マネージャー



シエナ大賞/杉谷直信
 ミラノ大賞/小山敦子
 金賞/浅原孝夫, 阿野康子
 M^o. 中川牧三,
 M^a. パコーチェビッチ
 M^a. レアーレ,
 G. トゥリッチーノ イタリア公使

東京芸術劇場 2002